

オリンピック・パラリンピック教育の推進

校長 川口 真澄

極寒の中、熱戦が繰り広げられた平昌冬季オリンピックが幕を閉じました。選手の方々の想像を絶するような厳しい練習、その日の為に費やされた時間の結晶は素晴らしい感動を与えてくれました。世界の頂点を目指すアスリートの能力や精神力、しかも彼らが 10 代、20 代であることにも驚異と畏敬の念を抱かざるをえません。東京 2020 に向けて、新しい時代と希望の到来を感じさせます。効率性を問われることが多い中、「今できること」に真摯に向き合い、努力を積み重ねてきた姿は胸に迫るものがありました。いよいよ、3 月 9 日から平昌冬季パラリンピックが開催されます。さまざまな障害や葛藤を克服し、出場される選手の方々から、また希望と感動がもたらされることでしょう。

今年度、本校ではオリンピック・パラリンピック教育に関わる様々な活動を行いました。各国の旗や音楽、料理を通しての世界の国々の学習、体育の時間や学校間交流、障害者スポーツ大会における「フライングディスク」や「ボッチャ」の取組み、「世界ともだちプロジェクト」でのブルキナファソとの国際交流、「夢・未来プロジェクト」でのパラリンピアンによる実技指導、そして「茶道体験」や「相撲教室」に、子供達はとても興味を示し、まっすぐな視線と歓声を向けていました。バーチャル（仮想）ではない実体験と本物を学ぶことの大切さを改めて教えてくれました。子供達の人生、学校生活の中で城東特別支援学校での学びが、今後の「生きる力」となることは私達の使命でもあります。オリンピック・パラリンピック教育の推進を通して、教育目標である「能力を伸ばし、豊かな人間性や社会性の育成」に向けて、子供達の学ぶ意欲をこれからも大切に育んでいきます。

平成 29 年 11 月、文部科学省から「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」が発出され、特別支援教育の生涯学習化、学校卒業後における障害者への学びの支援体制の充実が示されました。障害者の生涯学習支援について新たな事業が開始されます。本校では東京都の「都立学校活用促進モデル事業」として、夜間・土日に団体への体育室開放を実施し、積極的に障害スポーツや生涯学習への関与に努めています。今年度の「フライングディスク教室」においても、本校生徒・保護者が参加されていました。これからも子供達一人一人が学校卒業後に「働くこと」「生活すること」を踏まえ、生涯を通じた学習の視点、誰もが楽しめるスポーツや活動を充実させていきます。

平成 30 年の春がもうすぐそこまでやってきています。桜色のほっぺの笑顔あふれる学校でありたいと思います。平成 29 年度本校の教育活動への御理解と御協力に心より感謝申し上げます。

